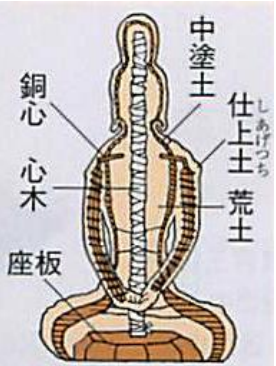






日本史(18) 「天平文化③ 美術(彫刻・絵画・工芸) 編」



■彫刻…表情豊かで調和のとれた仏像が多く、以前からの金銅像や木像の他に新たな技法が発達。

<p>1.</p>  <p>木を芯として粘土を塗り固めた。</p>	<p>2.</p>  <p>原型の上に麻布を幾重にも漆で塗り固め、後で原型を抜き取る。</p>
--	---

<東大寺法華堂>

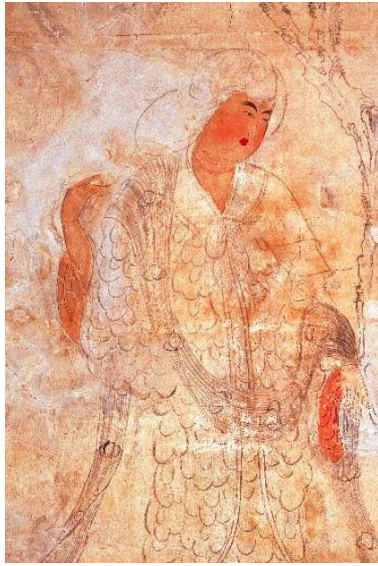
<p>3.</p> 	<p>4.</p> 	<p>5.</p> 
<p>6.</p>	<p>7.</p>	

<興福寺>

<p>8.</p> 	<p>9.</p> 
<p>10.</p>	

■ 絵画…唐の影響を受けた華麗で豊満な表現。

11.



12.



13.



■ 工芸…[14.]

[14.]が有名。聖武太上天皇の死後、光明皇后が遺愛の品々を東大寺に寄進した。

15.



16.



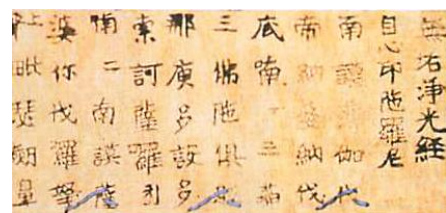
17.



18.



19.



[20.]

[20.](孝謙太上天皇)が恵美押勝の乱の戦没者を慰霊するために作らせた。